



LONGINES
Hong Kong International Races 2024
2024香港国際競走

香港ヴァーズ (G1)
LONGINES Hong Kong Vase

香港スプリント (G1)
LONGINES Hong Kong Sprint

香港マイル (G1)
LONGINES Hong Kong Mile

香港カップ (G1)
LONGINES Hong Kong Cup

12月8日(日)

香港 シャティン競馬場

※変更情報は JRA ホームページ等でご確認ください



香港ヴァーズ



香港・シャティン競馬場
2400m(芝) 3歳以上

日本時間12月8日(日) 15時10分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

本年もヨーロッパ勢と日本勢の争いか

芝2400mという競走条件だけに、欧州vs.日本という戦いの図式になることが多く、過去10年の勝ち馬を見ても、欧州調教馬5勝に対し日本調教馬4勝(他に香港調教馬1勝)と拮抗した成績となっている。

欧州からは6頭がエントリー。中でも注目が高いのは、このレース過去3勝と、調教師としての歴代最多勝タイ記録を持つエイダン・オブライエンが送り込む、**ルクセンブルク**(牡5歳)と**コンティニューアス**(牡4歳)の2頭だろう。

2歳時から5歳となった今季まで、4年連続でG1制覇を果たしているのがルクセンブルクだ。昨年の香港国際競走では2000mの香港カップに出走し、ロマンチックウォリアーに短アタマ差に迫る2着となっている。シャティンの馬場に適性があることを実証済みなわけだ。

父ハーツクライの日本産馬という血統背景をもつコンティニューアス。今季はG3の勝ち鞍しかないが、3歳だった昨年の秋にドンカスターのG1英セントレジャーを制し、クラシック制覇を果たしている大物である。ここ2戦は二桁着順が続いているが、前々走のG1凱旋門賞は道中大きな不利があったし、前走G1英チャンピオンSは距離も馬場も不向きだった。良馬場の2400m戦なら、見直したい馬だ。

日本からも、クラシックホースの参戦がある。桜花賞(GI)勝ち馬**ステレンボッシュ**(牝3歳)だ。その後、オークス(GI)

2着、秋華賞(GI)3着と、牝馬三冠すべてで馬券に絡む安定した成績を残している。ここまで出走した7戦中、オークスを含む4戦において、上がり3ハロンの時計が出走馬中最速という決め手の鋭さが武器だ。

2200mから2400mのGIIを3勝してい

る**ブラダリア**(牡5歳)。2016年の香港ヴァーズ勝ち馬サトノクラウン、19年の勝ち馬グローリーヴェイズ、22年の勝ち馬ウインマリリンは、いずれもその段階ではGIIまでの勝ち鞍しかなく、ここがG1初制覇だった。このクラスの馬が通用することは実証されている。

●主な出走予定馬

馬名	調教国	性別	年齢	戦績	主な勝鞍
ステレンボッシュ	日本	牝	3	7戦 3勝	24桜花賞(GI)
ブラダリア	日本	牡	5	18戦 4勝	24京都記念、23京都大賞典、22青葉賞 ※すべてGII
コンティニューアス	アイルランド	牡	4	13戦 5勝	23英セントレジャー(GI)
ルクセンブルク	アイルランド	牡	5	19戦 7勝	24コロネーションC、23タタソールズゴールドCなどG1・4勝



ステレンボッシュ



ブラダリア



コンティニューアス



ルクセンブルク(中央)

当コーナーの情報は11月27日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

香港スプリント

G1

香港・シャティン競馬場
1200m(芝) 3歳以上

日本時間12月8日(日) 15時50分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

香港短距離界の新星・カーインライジングが主役か

短距離路線の水準が高く層も厚い香港勢が、このレースも過去10年のうち9勝と、圧倒的成績を誇っている。

その香港短距離界に新たに出現した“怪物”と、大変な評判になっているのが**カーインライジング**(騾4歳)だ。昨シーズン最終戦のG3シャティンヴァーズで重賞初制覇を果たしていた同馬。今季初戦から2連勝を飾って参戦した前走G2香ジョッキークラブスプリントが圧巻だった。3番手追走から、残り300mで馬なりのまま先頭へ。そこから鞍上が追うと瞬時に後続を突き放し、2着以下に3馬身1/4差をつける快勝。ゴール前100mは流したにも関わらず、勝ち時計の1分07秒43は2007年にセイクリッドキングダムが作った記録を17年ぶりに更新するトラックレコードだった。今年の香港国際競走の主役の1頭である。

昨シーズンの香港最優秀短距離馬**カリフォルニアスパンクル**(騾6歳)。香ジョッキークラブスプリントでは大敗したが、その1戦だけでは見限れない実績馬だ。

米国から参戦するのが、昨年のG1ブリーダーズカップターフスプリント勝ち馬**ノーボールズ**(騾5歳)だ。11月16日にウッドバインで行われたG2ケネディロードSで1年ぶりの重賞制覇を果たし、勢いに乗っての参戦となる。

日本からは、9月29日に中山で行われたスプリンターズS(GI)の1・2着馬が参戦する。

デビュー当初はダートを走っていたが、

3歳春からこの路線に転じて素質が開花したのが**ルガル**(牡4歳)だ。重賞での入着を3度重ねた後、今年1月にシルクロードS(GIII)を制し重賞初制覇。3月の高松宮記念(GI)では1番人気に応えられず大敗したが、前走スプリンターズSを制し、短距離路線の最前線に躍り出た。

3歳夏からこの路線の中核として活躍し、GII・GIIIを4勝しているのが**トウシンマカオ**(牡5歳)だ。前々走のセントウルS

(GII)では、前年のスプリンターズS勝ち馬ママコチャを2着に退けて優勝。前走スプリンターズSはクビ差の2着と、5歳の秋にして競走馬としての最盛期を迎えようとしている。

ここにさらに、この路線の重賞2勝馬**サトノレーヴ**(牡5歳)が加わる。父は12年・13年とこのレースを連覇しているロードカナロアで、潜在的なシャティン適性は極めて高いことが期待される。

●主な出走予定馬

馬名	調教国	性別	年齢	戦績	主な勝鞍
サトノレーヴ	●	牡	5	10戦 7勝	24函館スプリントS、キーンランドC ※すべてGIII
トウシンマカオ	●	牡	5	20戦 7勝	24セントウルS(GII)
ルガル	●	牡	4	13戦 4勝	24スプリンターズS(GI)
カーインライジング	☆	騾	4	10戦 8勝	24香ジョッキークラブスプリント、プレミアボウル ※すべてG2



サトノレーヴ



トウシンマカオ



ルガル



カーインライジング

写真:Lo Chun Kit・TIS

当コーナーの情報は11月27日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。
当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

香港マイル

G1

香港・シャティン競馬場
1600m(芝) 3歳以上

日本時間12月8日(日) 17時00分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

次の香港マイル王を狙うヴォイツジバブルに日本馬対峙

実に3シーズン連続で香港年度代表馬の座に君臨し、この香港マイルでも3勝、2着1回の成績を残したゴールデンシックスティが、昨シーズンをもって引退。この路線も新たな時代を迎えようとしている。

昨年のこのレースでゴールデンシックスティの2着だった**ヴォイツジバブル**(騾6歳)が、次走のG1香スチュワーズCでG1初制覇を達成。その同馬が、11月17日にシャティンで行われた前哨戦のG2香ジョッキークラブマイルに優勝。香港マイル戦線における、新たな中核になろうとしている。

豪州からの参戦となるのが**アンティノ**(騾6歳)だ。3歳8月という遅いデビューの後、5歳時に重賞2勝、G1トゥーラックH2着などの成績を残した同馬。6歳を迎えた今季はさらにレベルアップし、2つのG1を含む3重賞で入着(4、3、3着)した後、10月12日にコーフィールドで行われたトゥーラックHを制しG1初制覇。前走G1カンタラSでも半馬身差の2着に入り、トップマイラーとしての地位を固めている。

1998年のジムアンドトニック以来、実に26年ぶりとなる仏国調教馬によるこのレース優勝を狙うのが**ラザット**(騾3歳)だ。8月にドーヴィルで行われたG1モーリスドゲスト賞を3馬身差で快勝し、デビューから無敗の6連勝でG1初制覇を達成。初めてアウェイの戦いに挑んだ前走ゴールデンイーグルで半馬身差の2着に敗れ、連勝は止まったが、きわめて豊かな才能

を持つ若駒との評価に揺るぎはない。

ここに日本は、この路線におけるタイトルホルダー2頭を送り込む。

前年の朝日杯フューチュリティS(GI)に続き、今年5月にNHKマイルカップ(GI)を制し、世代最強マイラーとして確固たる存在となったのが**ジャンタルマンタル**(牡3歳)だ。熱発のため予定をしていた

富士S(GII)を回避後は、ここ1本に照準を絞って調整されている。

11月17日に京都で行われたマイルチャンピオンシップ(GI)を制し、悲願のGI初制覇を果たした**ソウルラッシュ**(牡6歳)。昨年12月に一度、香港遠征を経験している(香港マイル4着)のは、大きな強みになるはずだ。

●主な出走予定馬

馬名	調教国	性別	年齢	戦績	主な勝鞍
ジャンタルマンタル	●	牡	3	6戦 4勝	24NHKマイルカップ、23朝日杯フューチュリティS ※すべてGI
ソウルラッシュ	●	牡	6	22戦 8勝	24マイルチャンピオンシップ(GI)
ヴォイツジバブル	✳	騾	6	21戦 7勝	24香スチュワーズC(GI)
ラザット	■	騾	3	7戦 6勝	24モーリスドゲスト賞(GI)



ジャンタルマンタル



ソウルラッシュ



ヴォイツジバブル



ラザット

当コーナーの情報は11月27日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性があります。
当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

香港カップ



香港・シャティン競馬場
2000米(芝) 3歳以上

日本時間12月8日(日) 17時40分発走予定

※発走時刻は変更となる場合があります。変更情報は、JRAホームページなどでご確認ください。

3連覇を狙う絶対的存在・ロマンチックウォリアー

過去10年は、日本調教馬が5勝に対し、香港調教馬も5勝と、日本と香港が互角の実績を残している。だが今年は地元・香港に、レース史上初の3連覇を狙う**ロマンチックウォリアー**(騾6歳)という絶対的存在がいる。

2021/22年、22/23年と、2シーズン連続で香港最優秀中距離馬のタイトルを獲得した同馬。さらに大きな飛躍を見せたのが23/24年で、地元・香港における3つのG1に加えて、豪州のG1コックスプレート(芝2040m)、日本のG1である安田記念(芝1600m)を制し、年度代表馬に選出された。今季初戦となった11月17日にシャティンで行われたG2香ジョッキークラブC(芝2000m)も、4馬身1/4差で快勝。付け入る隙を見いだせない本命馬と言えそうだ。

11月15日にサキールで行われたG2バーレーンインターナショナルトロフィーを制し、同レース連覇を果たしての参戦となる英国調教馬が**スピリットダンサー**(騾7歳)だ。ここまで4つの重賞を制しているが、そのうち3つは中東のレースで、アウェイでの戦いに無類の強さを発揮している。この馬を生産し所有するグループの中心人物が、マンチェスター・ユナイテッドの元監督アレックス・ファーガソン氏というのも話題だ。

バーレーンインターナショナルトロフィーで3着だった仏国調教馬**カリフ**(騾5歳)。今年7月のG1バイエルンツホトレネンで、強豪ファンタスティックムーンを2着に退け

て優勝を飾った実績がある。

昨年は牝馬三冠を達成した後、ジャパンカップ(GI)に出走してイクイノックスの2着となった**リバティア일랜드**(牝4歳)。13着と、デビュー以来初めて大きく崩れた天皇賞(秋)(GI)の10日後には、レース間隔や距離を考慮して、今季の最終戦がここになることを陣営が発表。捲土重

来を期しての調整が続けられている。

日本ダービー制覇を含めて、昨年の三冠でいずれも連対を果たした**タスティエーラ**(牡4歳)。結果の出ない時期も経験したが、前走の天皇賞(秋)は2着に健闘。本来の輝きを取り戻して、16年に父サトノクラウンがG1香港ヴァーズを制している地に赴く。

●主な出走予定馬

馬名	調教国	性別	年齢	戦績	主な勝鞍
タスティエーラ	日本	牡	4	10戦 3勝	23日本ダービー(GI)
リバティア일랜드	日本	牝	4	9戦 5勝	23桜花賞、オークス、秋華賞、22阪神JF ※すべてGI
スピリットダンサー	英国	騾	7	28戦 9勝	24・23バーレーンインターナショナルT、24ネオムターフC ※すべてG2
ロマンチックウォリアー	香港	騾	6	21戦 16勝	24安田記念、23コックスプレート、23・22香港CなどGI(GI)8勝



タスティエーラ



リバティア일랜드



スピリットダンサー



ロマンチックウォリアー

当コーナーの情報は11月27日時点のものです。出走回避・出走取消などによりレースに出走しない可能性がございます。
当コンテンツの内容においては、JRAが特定の馬の応援や推奨などを行うものではありません。

香港国際競走 日本馬の足跡



香港ヴァーズ (G1) 芝2400m

グローリーヴェイズが2勝を記録

前身の香港国際ヴァーズ時代を含め、日本調教馬はのべ32頭が出走し、5勝を挙げている。

初めて本競走を制した日本馬は**ステイゴールド**(2001年)。「日本産・日本調教馬による初の海外G1制覇」という日本の競馬史に残るメモリアルウインでもあった。

それから15年後の2016年に**サトノクラウン**が日本馬2勝目を挙げると、2019年と2021年はディープインパクト産駒の**グローリーヴェイズ**が勝利を取めた。2022年には**ウインマリリン**が日本の牝馬として初戴冠。勝利を取めた日本馬4頭はすべてこれが初のビッグタイトルであったという共通点がある。

●香港ヴァーズ 日本馬の優勝例

年	馬名	性別	騎手	調教師	タイム	人気
2022	ウインマリリン	牝5	D. レーン	手塚 貴久	2:27.53	2人気
2021	グローリーヴェイズ	牡6	J. モレイラ	尾関 知人	2:27.07	1人気
2019	グローリーヴェイズ	牡4	J. モレイラ	尾関 知人	2:24.77	3人気
2016	サトノクラウン	牡4	J. モレイラ	堀 宣行	2:26.22	4人気
2001	ステイゴールド	牡7	武 豊	池江 泰郎	2:27.8	

注記: 人気はJRAでの発売(2016年以降)のもの



2021年 グローリーヴェイズ

写真: Lo Chun Kit・TIS

昨年のレース

直線で粘りの末脚を見せたゼッフィーロだったが、フランスのジュンコに1馬身及ばず惜敗。ジェラルディーナは4着、レーベンスティールは8着。



2023年 香港ヴァーズ

香港スプリント (G1) 芝1200m

短距離王国の地で父仔制覇

短距離王国と呼ばれる香港競馬。事実、香港スプリントは過去25回のうち実に19回で地元馬が勝利を取めている。そんな歴史だからこそ、**ロードカナロア**、**ダノスマッシュ**父仔の勝利は日本競馬にとって大きな意味を持つものである。

ロードカナロアは2012年、スプリンターズSで初ビッグタイトルを獲得すると、次走に海外遠征を選択。強豪ひしめくこの香港スプリントで2馬身半差の快勝を取めただけではなく、翌2013年には5馬身差の走りでも連覇を達成し、世界に自身の名を轟かせたのであった。

そして2020年。その産駒であるダノスマッシュが2度目の香港スプリント挑戦で悲願の戴冠を果たす。これが本競走唯一の父仔制覇例である。

●香港スプリント 日本馬の優勝例

年	馬名	性別	騎手	調教師	タイム	人気
2020	ダノスマッシュ	牡5	R. ムーア	安田 隆行	1:08.45	3人気
2013	ロードカナロア	牡5	岩田 康誠	安田 隆行	1:08.25	
2012	ロードカナロア	牡4	岩田 康誠	安田 隆行	1:08.50	

注記: 人気はJRAでの発売(2016年以降)のもの



2020年 ダノスマッシュ

写真: Lo Chun Kit・TIS

昨年のレース

日本の章駄天2頭が出走し、ジャスパークローネは7着、マッドクールは8着だった。優勝は香港を代表するスプリンターのラッキースワイネス。



2023年 香港スプリント



香港マイル(G1) 芝1600^{メートル}

2019年は日本3歳馬が勝利

日本馬は1993年が初出走で、これまでのべ56頭が出走し4勝を挙げている。

最初に勝利を取めたのは2001年の**エイシンプレストン**で、2着馬に3馬身1/4差をつける快勝であった。2005年は**ハットトリック**、2015年には**モーリス**が、前走でマイルチャンピオンシップを制した勢いそのままに勝利を取めている。

直近の日本馬優勝例は2019年の**アドマイヤマーズ**。同年のNHKマイルカップを制していた同馬が、前走9着からの鮮やかな巻き返しを見せて優勝を飾った。日本の3歳馬が海外G1を制したのは2005年のシーザリオ以来のこと。

●香港マイル 日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	タイム	人気
2019	アドマイヤマーズ	牡3	C. スミヨン	友道 康夫	1:33.25	5人気
2015	モーリス	牡4	R. ムーア	堀 宣行	1:33.92	
2005	ハットトリック	牡4	O. ペリエ	角居 勝彦	1:34.8	
2001	エイシンプレストン	牡4	福永 祐一	北橋 修二	1:34.8	

注記：人気はJRAでの発売(2016年以降)のもの



2019年 アドマイヤマーズ

昨年のレース

日本馬は5頭が出走し、最先着はナムユールの3着。ソウルラッシュが4着と続き、セリフォスが7着、ディヴィーナが11着、ダノンザキッドは12着だった。優勝は香港年度代表馬ゴールデンシックスティ。



2023年 香港マイル

香港カップ(G1) 芝2000^{メートル}

8勝を挙げる好成績

香港国際競走4競走のなかで、日本馬が最も勝利を挙げているのが香港C。これまで8勝を挙げている。

海外競馬発売が行われるようになった2016年以降を見ると4頭が本競走を制しており、うち3頭は1番人気(JRA独立プール)に応じての勝利であった。

直近の優勝例は2021年の**ラヴズオンリーユー**。春に香港・クイーンエリザベスII世C、前走ではアメリカ・ブリーダーズカップフィリー&メアターフを制した同馬が見せた貫禄のラストランであった。

●香港カップ 日本馬の優勝例

年	馬名	性齢	騎手	調教師	タイム	人気
2021	ラヴズオンリーユー	牝5	川田 将雅	矢作 芳人	2:00.66	1人気
2020	ノームコア	牝5	Z. パートン	萩原 清	2:00.50	5人気
2019	ウインブライト	牡5	松岡 正海	畠山 吉宏	2:00.52	1人気
2016	モーリス	牡5	R. ムーア	堀 宣行	2:00.95	1人気
2015	エイシンヒカリ	牡4	武 豊	坂口 正則	2:00.60	
2001	アグネスデジタル	牡4	四位 洋文	白井 寿昭	2:02.8	
1998	ミッドナイトベット	牡4	河内 洋	長浜 博之	1:46.9	
1995	フジヤマケンザン	牡7	蛸名 正義	森 秀行	1:47.0	

注記：人気はJRAでの発売(2016年以降)のもの。ミッドナイトベット、フジヤマケンザン優勝時は香港国際カップ(G2)として1800^{メートル}で行われた



2021年 ラヴズオンリーユー(左)

写真: Lo Chun Kit・TIS

昨年のレース

3頭が出走。ヒシイグアス3着、プログノーシス5着、ローシャムパークは8着だった。優勝はこれで本競走2年連続制覇のロマンチックウォリアー。



2023年 香港カップ



SHA TIN RACECOURSE シャティン競馬場 コース紹介

九龍半島の新界エリアにあるシャティン競馬場は香港に2つある競馬場のうちの1つ。香港カップ(芝2000 m)をメインとして、香港スプリント(芝1200 m)、香港マイル(芝1600 m)、香港ヴァーズ(芝2400 m)と計4つのG1がまとめて行われることで香港競馬のハイライトとなっているだけでなく、世界的に見ても年末の大きな競馬イベントとしてすっかり定着している。同競馬場は、香港国際競走が開催される香港におけるほとんど全ての重要なレースの舞台となっている(香港の重賞31レース中、30レースを実施)。

1978年に開場したシャティン競馬場は楕円型の右回り。1周1899 m 、最後の直線430 m の芝コースと、その内側

にある1周1555 m 、最後の直線365 m のオールウェザーコースからなる。芝コースには2本のシュート(引き込み走路)が延びており、香港マイルの芝1600 m 戦や直線だけで行われる芝1000 m 戦などのスタート地点として使われている。なお、香港国際競走が行われる芝コースは、向正面が最後の直線よりも少しだけ高くなっているが、傾斜も緩やかであり、平坦コースの部類に入ると言える。

香港国際競走4レースのうち、コース設定上で最も注意したいのは芝2000 m の香港カップ。発走後200 m 足らずで最初のコーナーに入るため、基本的に外枠は不利。ゲート順やスタートの重要度が高い。(文・秋山響)

香港国際競走

- ▶ 第4レース 香港ヴァーズ(G1) 芝2400 m 、3歳以上
- ▶ 第5レース 香港スプリント(G1) 芝1200 m 、3歳以上
- ▶ 第7レース 香港マイル(G1) 芝1600 m 、3歳以上
- ▶ 第8レース 香港カップ(G1) 芝2000 m 、3歳以上

馬券の購入方法、レース視聴方法などは本誌モノクロページおよびJRAホームページにてご確認ください。
発走時刻などは変更となる場合があります。
変更情報はJRAホームページでご確認ください。



JRAホームページ

